

茶—殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						炭疽病	もち病	新梢枯死症	菌新梢枯死症（輪斑病による）	輪斑病
1	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	-	-	-	-
2	Zボルドー		普	銅	M1	○	○	-	-	-
3	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	○	○	○	-	-
4	コサイド3000		普	銅	M1	○	○	-	○	-
5	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	○	○	-	-	-
6	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	○	-	○	○
7	ドイツボルドーA		普	銅	M1	○	○	-	-	-
8	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	○	○	-	-	-
9	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	○	○	-	○	○

茶—殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名											
						クワシロカイガラムシ	チャトゲコナジラミ	カンザワハダニ	チャノキイロアザミウマ	チャノミドリヒメヨコバイ	チャノホソガ	カイガラムシ類	チャノナガサビダニ	チャノホコリダニ	チャノコカクモンハマキ	コカクモンハマキ	チャハマキ
1	アタックオイル		普	マシ油	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アドマイヤー水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-
3	アブロードエースフロアブル		普	1.フェンピロキシメート 2.プロフェジン	21A、16	-	○	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-
4	ウララDF		普	フロニカミド	29	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
5	グレーシア乳剤	抑制	普	フルキサメタミド	30	-	○	-	○	○	○	-	-	○	○	-	○
6	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	○	○	○	○	-	-	○	○	○	-	-
7	コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナゾン	9B	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
8	ジェイエース水溶剤		普	アセフェート	1B	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-
9	ダニゲッターフロアブル		普	スピロメシフェン	23	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-
10	チューンアップ顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	○
11	ディアナSC		普	スピネトラム	5	-	○	-	○	-	○	-	-	-	○	-	○
12	バシレックス水和剤	抑制	普	BT	11A	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	○
13	ハチハチフロアブル	抑制	劇	トルフェンピラド	1:21A F:39	-	○	-	○	○	-	-	○	○	-	-	-
14	ピラニカEW		劇	テブフェンピラド	21A	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
15	ベストガード水溶剤		普	ニテンピラム	4A	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
16	マトリックフロアブル	抑制	普	クロマフェノジド	18	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	○

5. 茶

病害虫名	防除方法	参考事項
炭疽病	防除時期 新芽伸長期：6月中～下旬、8月上旬～9月中旬 生育中 1. 窒素肥料の過剰施用を避ける。 2. 1番茶摘採後に浅刈りを実施する。 3. 適用のある薬剤で防除する。	<ul style="list-style-type: none"> ・通風、日当たりを良くする。 ・降雨により、新芽が濡れている期間が長いと多発しやすい。 ・2番茶摘採後に発生するが、秋季の発生が多い。 ・罹病に品種間差が大きく、「やぶきた」は弱い。 ・菌の生育適温は、25℃前後である。 ・ICポルドー66Dは最終摘採後に使用する。
輪斑病	防除時期 1番茶摘採後：6月下旬～7月上旬 生育中 1. 適用のある薬剤で防除する。	<ul style="list-style-type: none"> ・摘採などによってできた葉や茎の傷口から感染するので、発生園はできるだけ早く、薬剤を散布する。 ・菌の生育適温は、25℃前後である。
新梢枯死症	防除時期 夏芽の萌芽期～2葉開葉期：7月中旬～8月下旬 生育中 1. 適用のある薬剤で防除する。	<ul style="list-style-type: none"> ・輪斑病が多発した茶園で発生しやすい。
カンザワハダニ	防除時期 春整枝前後・1番茶萌芽前：3月中旬～4月上旬 1番茶摘採後：6月上旬 秋芽生育期：8月下旬～9月 秋整枝後：10月～11月 生育中 1. 適用のある薬剤で防除する。	<ul style="list-style-type: none"> ・防除の目安は、1番茶萌芽期の成葉の寄生葉率が20%以上のとき。 ・晩霜のあった後には多発するおそれがある。 ・春(4～6月)と秋(9～10月)にかけて、年間2回の発生ピークがある。 ・同一薬剤の連続使用を避ける。 ・アタックオイルは摘採前4週間は使用しない。
チャノミドリヒメヨコバイ	防除時期 6月～10月 生育中 1. 1番茶摘採後に摘採面下10cm弱程度を除去する浅刈りを実施する。 2. 適用のある薬剤で防除する。	<ul style="list-style-type: none"> ・2番茶摘採後と秋の発生が多い。 ・成虫で越冬し、年間5～8回の世代を繰り返す。 ・ハチハチフロアブルは☆群馬県指定農薬(抑制指導農薬)流通および使用に抑制指導を要す。(蚕毒)

病害虫名	防除方法	参考事項
チャトゲコナジラミ	<p>防除時期</p> <p>一番茶摘採後：6月上～下旬 夏芽伸長後：8月上～下旬 秋整枝後～越冬前：10月上旬～下旬 越冬期～春整枝前：1月上旬～2月下旬</p> <p>生育中</p> <p>1. 深刈りせん枝により、発生園の葉を完全に除去する。せん枝した枝葉は埋設処理する。</p> <p>2. 1番茶摘採後、夏芽伸長後、秋整枝後～越冬前に、適用のある薬剤で防除する。</p> <p>3. 1番茶摘採後、夏芽伸長後、越冬期～春整枝前に適用のある薬剤で防除する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は下位葉の葉裏に生息し、吸汁加害する。群生すると、分泌物により下位葉にすす病を誘発する。 ・成虫は新芽に群生し、吸汁加害する。摘採作業時に飛び交った成虫を吸引するなど不快になる。 ・寄生苗、衣服等に付着した成虫により未発生の地域に侵入する。 ・本種は爆発的に密度が増加するため、侵入が確認されたら直ちに防除を行う。 ・茶のほか、サザンカ・ヤブツバキ（椿）・サカキ・ヒサカキ・シキミに寄生する。 ・茶園のみでなく、庭木・生け垣等を含めた地域一斉防除を実施する。 ・防除薬剤はいずれも卵又は若齢幼虫には効果が高いが、老齢幼虫、成虫には効果が低い。 ・防除適期は、成虫の発生が終息した頃を目安とする。 ・薬剤の散布は、すそ部から樹幹内部へ吹き上げ、葉裏に薬液が付着するように散布する。なお、薬液量は400L/10aとする。 ・薬剤散布前にすそ刈りを行うと防除効果が高い。 ・アタックオイルは、若齢から老齢幼虫に効果があり、防除期間も長い。また、1月、2月の2回散布することで、越冬老齢幼虫の密度を下げるができる。 ・アタックオイルの冬期散布は赤焼病を助長することがあるが、1月から3月に散布することで、助長の程度は軽くなる。 ・アタックオイルは摘採前4週間は使用しない。 ・チャトゲコナジラミ幼虫にシルベストリコバチが寄生することにより、発生が低密度に抑えられる。 ・シルベストリコバチの寄生の有無は、黄色粘着トラップによる捕獲またはチャトゲコナジラミ幼虫殻の脱出孔により確認が可能である。 ・シルベストリコバチの定着が確認された場合の防除薬剤は、天敵昆虫に影響の少ない薬剤（ダニゲッターフロアブル、アプロードエースフロアブル、ウララDF、コルト顆粒水和剤、アタックオイル）を使用し、天敵の温存に努める。 ・ハチハチフロアブルは☆群馬県指定農薬（抑制指導農薬）流通および使用に抑制指導を要す。（蚕毒）